

区政Now！（平成28年12月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

い
ま
あ
ら
か
わ



開館が来年3月に迫りました「ゆいの森あらかわ」について、横浜で開催された図書館総合展でPRを行いました。より多くの区民の皆様に親しまれ、区のシンボリックな施設となるよう、開館に向けた準備を進めてまいります。

また、陸上選手の高田裕士・千明夫妻が先日来庁され、パラリンピックの様子や競技についてのお話を伺いました。区では、2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向け、ボランティア等の養成を図るなど、多くの方々が大会に参加できるよう、地域の資源を活用しながら、取り組んでまいります。

引き続き、御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

横浜で開催された図書館総合展で「ゆいの森あらかわ」をPRしました

11月8日、横浜で開催された図書館総合展において、来年3月に開館する「ゆいの森あらかわ」のPRを行いました。会場には、パネリストとして松本大学図書館長の伊東直登氏、コーディネーターに「ゆいの森あらかわ」アドバイザーでもある太田剛氏をお招きし、パネルディスカッション形式で進行いたしました。



講演の様子

建設までの経緯や、区出身の作家・吉村昭氏との親交にまつわるエピソード、ノンフィクション作家の柳田邦男氏が提唱されている絵本の力についてのお話をとおして、「ゆいの森あらかわ」という施設と、その目指すところをお伝えいたしました。会場は大変にぎわい、区民の皆さまだけでなく、図書館職員や教育関係者などの様々な方々に関心を持っていただいていることを再確認いたしました。

開館に向け、本施設がより多くの区民の皆さまに利用され、地域の文化とコミュニティの拠点となるよう、今後ともしっかりと準備を進めてまいります。

荒川区医療救護連携訓練を行いました

11月13日、汐入小学校を中心に、医療救護連携訓練を行いました。4回目の開催になる今年は、荒川区医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会、東京リバーサイド病院、消防、警察など防災関係機関だけでなく、町会の役員の方々も含めた13機関にご協力をいただき、参加者は200名を超えました。



救護訓練の様子

訓練では、地域防災計画に基づき、災害時に医療機関の機能を確保するために、緊急医療救護所・医療活動センターの開設・運営及び傷病者の搬送等の実働について検証しました。

今後とも、より幅広い世代の多くの方々の参画による、実効性の高い訓練等を実施するとともに、様々な手法で地域の防災を担う人材育成に努め、地域力を最大限活かした、荒川区ならではの防災体制の構築を目指してまいります。

主
な
事
業

高田裕士・千明夫妻が来庁しました

高田裕士・千明夫妻が来庁し、千明氏からはリオデジャネイロ・パラリンピックの結果の報告を、裕士氏からは来年開催されるデフリンピックへの出場決定の報告を受けました。

裕士氏は、荒川区出身の聴覚障害の部の陸上400mハードルの日本記録保持者で、千明氏は、リオパラリンピックで走り幅跳び日本新記録で8位に入賞したパラリンピアンです。



高田裕士・千明夫妻とともに

オリンピック・パラリンピックフラッグが来年4月3日から7日まで展示されます

「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」は、オリンピック・パラリンピックの象徴であるフラッグのもと、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさやその価値を伝えていくことを目的に行っているものです。「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に向け、フラッグは東京都内62区市町村を巡回し、各地で到着を歓迎するセレモニーと展示が行われます。

荒川区では、来年4月2日にセレモニーを開催し、3日から7日まで区役所本庁舎1階の展示スペースに展示される予定ですので、是非ご覧ください。詳細は、決まり次第HP、区報でお知らせいたします。

常磐線日暮里7号線ガード壁画が完成しました

11月17日、区内5箇所となる高架下の壁画が常磐線日暮里7号線ガードに完成しました。

今回の壁画は、東側と西側にそれぞれ、道灌山の崖や周辺に咲いていた花や風景を描いた「太田道灌と道灌山」、涼しげな浴衣姿の女性らが道灌山で虫聞きを楽しむ様子を連想できるような「道灌山虫聞き」の2種類のデザインを採用し、東京藝術大学卒業生グループを中心に、近隣の小学生や住民、ボランティアの方々の協力で壁画を作成しました。



最後に筆入れをして完成

区では、落書きやゴミが投棄されている高架下に壁画を作成することで、犯罪の起きにくい環境づくりを推進しています。

町屋幼稚園で芸術体験教室が開催されました

11月9日、町屋幼稚園において、東京藝術大学の方を講師としてお迎えし、ゼラチンなど身近にあるものを使って絵の具を作成し、自画像を描く芸術体験教室を開催しました。

子どもたちは、使ったことのない絵の具に最初は戸惑っていましたが、時間が経つにつれ扱いにも慣れ、楽しそうに鏡を見ながら自分の顔を描いていました。

今後とも、子どもたちの豊かな感性を育て、心で感じたり、思ったりしたことを表現する意欲を培うとともに、創造力の育成や人格形成の基礎として重要な役割を担う芸術に触れる機会を設けてまいります。



慣れない絵の具に苦戦中